

定例市長記者会見録

日 時：2月20日(火) 午前11時～11時35分

場 所：本庁舎6階 特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長、山田副市長

報道機関 中日新聞、朝日新聞、読売新聞

本日の案件は、三つです。

1番目は「令和5年度3月補正予算(案)に計上された主な事業」についてです。

No.1「能登半島地震の被災地域への職員派遣」

一宮市から各分野で職員を派遣しています。国から補填されるものですが、職員派遣に対応する人件費です。業務は家屋の被害認定や緊急消防援助隊、水道事業など広範囲に渡り、そのための補正予算となります。

No.2「新型コロナワクチン接種による健康被害に対する給付費」

国策で進めてきたワクチン接種で健康被害が報告され、市内でも重篤な事案が生じ認定されました。今回は3名分で、うち1名がお亡くなりになりました。市内では初のケースとなりますが、健康被害に対する給付費ということで4,400万円を計上しています。

No.3「流域貯留施設築造事業」

洪水・豪雨対策で、小中学校のグラウンドの地下などで工事を進めてきましたが、今年度から公園の地下で工事を進めています。大平島公園と多加木公園はこれまで進めていたもので、三ツ井公園はこのたび新しく進めます。国の令和5年度補正予算で補助金が計上されましたので、市の予算も前倒しで計上します。

No.4「駅駐車場への防犯カメラ」

1月21日に名鉄新木曾川駅・JR木曾川駅周辺で、男性が4人組の集団に金属バットのようなもので襲われるという事件が連続して起きました。両駅の周辺は、人家のない寂しいところもあることから、セキュリティが少し弱いと感じ、警察とも相談しながら防犯カメラを増設するための予算案を計上しています。

No.5「弁護委託料」

訴訟に係る弁護士への委託料です。

No.6「医療過誤に係る損害賠償金」

市民病院での医療過誤に係る損害賠償金です。

2番目は「令和6年度 一宮市 予算の概要」についてです。

全体では、一般会計が1,355億4,000万円で過去最大規模です。全会計では、介護会計、後期高齢者会計、病院会計、水道会計、下水道会計と軒並み増額となっています。

歳入について、市税はありがたいことに市民税・固定資産税ともに好調で、合計では5.5億円の減額(△1.1%)ですが、これは国の定額減税の影響によるものです。実質的には、

国の定額減税の影響がなければ、市の税収は10億円以上のプラスになります。なかでも固定資産税は、大型物流倉庫などの新築家屋分の増もあり大変好調です。納税していただいている皆さまに感謝申し上げたいと思います。

歳出について、一番増えているのは民生費で、物価高騰による支援給付金などで43.6億円の増額（+8.1%）です。減額したのは衛生費で、新型コロナ対策関連の減額です。教育費は給食センターを新しくオープンしますので、その関係で大幅に増えるという状況です。

続いて「令和6年度 一宮市の予算 イチ推し20」についてご紹介します。

No.1「地域DX推進事業」

まず健康・子育て支援の分野から、市民の皆さまが「いいな」「便利だな」「簡単だな」とメリットを実感していただけるDXを始めたいこうと準備をしています。健康支援アプリや子育て支援アプリは各自治体でもやっていますが、一宮市では自分がこれまでどういうワクチン打ったのかなど、きちんと生涯記録の管理できるような形で運営していきたいと考えています。国は、医療分野でマイナンバーカードを使いどんどんDXを進めていますが、われわれ自治体は病気になる手前のところで創意工夫を発揮していろいろなことができたらいいなと考えており、予算を確保して地域DXを進めていこうと思っています。

また、スポーツ施設利用のスマート化を考えています。スポーツ施設に限らず公共施設の利用は、鍵の受け渡しで管理しており、鍵の受け渡しにどこかに向いてもらったり、担当が開けたりする必要があります。そのためスマートキー・スマートロックと言われるような暗証番号のタイプに替えて、本人確認はマイナンバーカードの12桁ではなく11桁の携帯電話番号でサービスの認証を行うことを考えています。ご登録いただいた利用者へ暗証番号をSMSでお送りして、ワンタイムパスワードという形でご利用いただくというように広げていきたいと思っています。

現在、総合体育館のトレーニングルームで実施し大変好評いただいている顔認証も、ゆくゆくは進めていけたらと思っています。できるだけデジタルの便利さを実感していただくハードルを下げて、新しいチャレンジをしていきたいと思っています。これまでは国の方針として、DXがマイナンバーの「カード」に集中していましたが、カードを離れて他にあるものを使えばさまざまなことできるので、新年度はそうしたDXを本格的に広げていけたらと思います。

No.2「移動型バリアフリートイレ整備事業」

昨年から実証実験をしてきましたが、ようやく実用化のめどが立つということで予算を組んでいます。全国に中核市が62市あり、私は中核市市長会の副会長ですが、このバリアフリートイレを全国の中核市で持ち合って、いざというときに助け合おうという動きも進めているところです。

No.3「一般旅券発給事業」

パスポートに限らず、マイナンバーカードも対象にしています。マイナンバーカードは市民の取得率が8割を超え医療保険証の併用など、今後いろいろな場面での利用が増えます。そこで、市民の皆さまが気軽に問い合わせできるような拠点として、現在一宮駅の観

光案内所がある場所に市役所の出先機関を作りたいと思います。

平日と日曜日はパスポート業務（日曜日は旅券交付のみ）で土曜日・祝休日はマイナンバーカード業務と、土・日・祝休日でも対応できるよう考えています。

No. 4 「字幕表示システム導入事業」

本庁舎 2 階の福祉部の窓口と 13 階の市議会本会議場や委員会室での導入を予定しています。同じ目的で愛知県議会はタブレットの貸し出しをするようですが、市ではディスプレイ型で対応するものです。

No. 5 「難聴高齢者補聴器購入費助成事業」

補聴器の購入を上限 3 万円で支援するものです。

No. 6 「児童手当支給事業」

これは国策になりますが、児童手当を高校生まで支給、第 3 子以降の手当の増額、支給タイミングがきめ細やかに隔月になるなど、児童手当の拡充について市からも PR していきたいと考えています。

No. 7 「ふたご産後ヘルプ利用料補助事業」

双子や三つ子、四つ子といった多胎児をご出産された方は不安や負担が多いと思いますので、そうしたご家庭を支援するものです。

No. 8 「保育所等給食費負担軽減事業」

保育所や小中学校の給食費について、現在食材費の高騰により値上げが必要な状態ですが、保護者の負担を増やさないう、その増額分を市で負担するという事業です。

No. 9 「带状疱疹ワクチン接種費用助成事業」

带状疱疹ワクチン接種の費用助成で、5,000 円を助成するものです。

No. 10 「省エネ家電製品買替促進補助事業」

令和 4・5 年と実施し大変好評でしたので、今回は LED 照明器具を新たに対象に加え、補助事業を行うものです。

No. 11 「流域貯留施設築造事業」

3 月補正予算にも挙げている事業で、大平島公園と多加木公園に加えて、新しく三ツ井公園のグラウンド地下にも雨水が貯められる貯留槽を整備するものです。

No. 12 「デジタルチケット・市内バス路線利用促進事業」

公共交通の利用をより応援するため、一宮版 MaaS (Mobility as a Service) の整備を進めます。市独自のものを作るわけではなく、現在、名古屋鉄道様様の公式アプリ「Cent X」と連携して整備することを考え、協議を進めているところです。これは先に紹介しました「地域 DX 推進事業」の健康増進分野ともうまく絡めていきたいということで話を進めています。

No. 13 「地域振興施設立地検討事業」

市内には「道の駅」が 1 カ所もなく、どこかには欲しいという声がありましたので、具体化に向けて関係者と議論を進めていくものです。

No. 14 「災害時ドローン委託事業」

ドローンはこれまでも実験や訓練のときには使っていましたが、今年1月の能登半島地震での状況を見ても役に立つことが明らかですので、民間事業者と契約を結び、いざというときの体制を整えるものです。

No. 15 「東浅井給食センター整備運営事業」

現在は2カ所ある共同調理場を3カ所に増やすことで、ある程度調理食数に余裕ができるので、メニューの充実を期待します。また、今はアレルギー対応食ができていませんが、新しい給食センターではアレルギー対応食を提供できるようになります。

No. 16 「一宮市民会館特定天井等改修事業」

市民会館のホールの吊り天井は特定天井に該当し、以前から危険性を指摘されていましたが、手をつけられていませんでした。工期は令和7年度からになりますが、今回ようやく改修をさせていただきます。ホールなどを使用できなくなる期間が1年以上あり、ご迷惑やご不便をおかけしますが、ご理解いただければと思います。

No. 17 「水泳授業委託事業」

水泳事業の民間委託になります。近隣の市で実施しているところを見てきましたが、市でも取り入れ、まずは開明小学校で実施します。直接的な経費だけでも、プールを新しくするよりも安く済みますし、屋外プールだと日焼けなどを理由に出席率も落ちていると聞きます。民間のスポーツクラブで水泳事業の委託を順次進めていければと考えています。

No. 18 「シン学校プロジェクト事業」

シン学校プロジェクトは、令和5年11月にキックオフミーティングを開催しました。令和6年度はいよいよ対象校を募集して、選考委員会の選定を経て具体的にどの学校を直すか、または作り変えていくかということを固めていきます。そのために必要な予算を計上しています。

No. 19 「総合体育館アジア競技大会対応改修事業」

2026年の愛知・名古屋アジア競技大会に向けた準備です。総合体育館で世界レベルのバドミントン大会を開催するにあたって、照明をLED化してトップアスリートたちを迎える準備を進めます。併せて、いくつかある和式トイレの洋式化に必要な改修工事の費用を計上します。

No. 20 「受診支援サービス事業」

デジタルを使ってより便利にということで、オンラインクレジット決済を取り入れることで会計窓口での支払いの待ち時間を減らす予定です。

以上が令和6年度の予算案の紹介となります。

3番目は「令和6年3月市議会定例会単行議案」についてです。

主なものをいくつかご紹介します。

「議案第26号 一宮市手数料条例の一部改正について」

マイナンバーカードを使ってコンビニエンスストアで住民票の写しなどが取得できます

が、コンビニ端末交付での手数料を期間限定で 100 円減額しています。この特例期間をさらに延長します。マイナンバーカードは便利だということを実感してもらうため、発行手数料の 100 円減額を延長するものです。

「議案第 34 号 都市計画法に基づく開発行為等の許可の基準に関する条例の一部改正について」

市街化区域と市街化調整区域という区分けの中で、本来、調整区域は市街化を進めない・あまり建物を建てては駄目だということになります。例外的に調整区域に昭和 45 年以前、およそ 50 年以上前から住んでいた人は住宅を建てられるという基準がありますが、50 年というのはさすがに長いと考え、その半分の期間でも住んでいれば、調整区域でも住宅を建てられるようにしたいという内容の条例改正となっています。

一宮市の場合は調整区域の人口が 4 割ほどで、比較的多くの方が調整区域に住まわれています。おかげさまで駅周辺はマンションなど新しい建築物が建っていますが、それだけではなく、少し離れた緑があるところで暮らしていただけるような環境整備も併せて進めたいと考え、そのために必要なルールの整備を提案するものです。

以上、本日の説明でございます。

質疑応答

(記者) 令和 6 年度予算の全体のコンセプトを市長の言葉でいただけますか？

(市長) 「コロナ乗り越え、前進予算」ですね。コロナを乗り越えて前に進むために必要な政策を進めていきたいと思っています。未来志向でさまざまなものに取り組んでいきたいと考えており、子育て支援や教育関係の施策をいろいろ盛り込むことができたと思います。シン学校プロジェクトもいよいよ本格的に動き始めますし、給食センターの整備運営や、水泳授業の民間スポーツクラブへの委託化など、新時代にふさわしい教育環境を整えていきます。一宮市は子育てに良いエリアということで、より地方創生を進めて人口増に繋げていければと考えています。

(記者) 消防の教育研修事業に大型免許の取得助成が入っている背景には、度重なる不祥事の問題があると思います。綱紀粛正を図ると言ってもなかなか不祥事がなくなるということについて、どのように受け止め、また何が原因だと考えていますか？

(市長) 起きたことは言語道断ですし、市民の皆さんにご不安やご心配をおかけしていることについて、私からもお詫びを申し上げる所存でございます。

令和 4 年に 3 件の懲戒処分があり、令和 5 年には 2 件の懲戒処分と 1 件の未成年の飲酒問題がありました。令和 5 年の 3 件とも 20 代・10 代のとても若い世代の職員でした。今年に入ってから 25 歳の無免許運転、21 歳の器物損壊と、いずれも若い世代の職員によるものでした。一つの分析として、消防職員の年齢構成がいびつになっていることにも原因があるのかもしれませんが。現在 40～50 歳代の職員が多く、

彼らの持てる力を発揮できる勤務環境を整えていないと、いろいろなひずみや歪みが若い世代に影響するのではないかと個人的には思っています。昨年と今年起きていることを考えると、風土を変えるには全体に手を入れないと本当の意味での改革はできないということで、副市長と消防長も入れて新年度から変えるべき一定の方向性を出していました。新年度に向けて組織の体制整理を踏み込んで考えていたところもあったので、1月と2月にこのようなことが続いたというのは本当に残念で、遺憾という言葉に尽きます。

(記者) 新しい組織改革のための予算や、具体的にどうしようということは決まっていますか？

(市長) 予算というよりは組織や処遇です。新年度から組織の見直しということで、処遇や報酬などの体系を変えることをやります。

(記者) 令和6年度予算について、教育に力を入れるということと、地域DXの例がいくつか挙がっていましたが、市として今後の目指すあり方をどう考えていますか？

(市長) 市として考えているのは、マイナンバーよりもちょっとゆるいデジタルの推進です。国が進めてきたマイナンバーカードは、厳格な本人認証には必要になりますが、行政が提供しているサービスには、そこまで厳格な本人確認が要らないサービスがたくさんあります。例えば、公民館の利用や小中学校の体育館の時間外利用などです。携帯電話の番号11桁を市に登録することでいろいろな行政サービスが便利に利用できるといった、ゆるいデジタルというものを広めていきたいと思っています。

もう一つの方向性として、マイナンバーカードの機能をスマホに搭載するというものがあります。今はアンドロイドのスマホには搭載でき、市役所の自動交付機や、コンビニエンスストアの自動交付機で利用可能になります。アンドロイドのスマホにマイナンバーカードの機能を搭載しておけば、マイナンバーカードを持参しなくてもスマホだけで住民票の写しなどが取れます。また、災害時の非難の際にもスマホであれば持ち出す可能性が高く、スマホに機能を搭載することは正解だろうと思っています。

マイナンバーの番号は覚えていなくても、11桁の携帯番号を覚えている人は多いと思います。携帯番号を利用して、もっと行政サービスのハードルを下げることで、スマホでいろいろなことができ便利だと感じていただけるよう、新年度予算で広げていきたいと思っています。

(記者) その中でも特に健康・子育てということですか？

(市長) そうですね。市民の皆さんに便利に感じてもらえるのが、スポーツ施設など公共施設の鍵の取り扱いです。今は物理的な鍵を使用しており、鍵の受け渡しにどこかに出向いてもらったり、市の職員が開けたりする必要があります。これに代えて、利用者にショートメールで鍵の暗証番号を送って開けてもらえれば済む話だと考えています。そういうところで市民の皆さまに便利さを実感していただけるよう進めていきたいと思っています。